



す。これまで、部長を対象としたS-KYT研修を毎年開催した結果、公務災害発生件数が減少し、平成20年は2件、平成21年は1件とかなりの効果が認められました。

しかし、その後は年平均4件を超えてしまい、その内容もちょっとした不注意や消防団員としての体調管理不足が原因ともいえるものが散見される状況にありました。

このようなことに鑑み、今一度原点に返り安全管理の基本や消防団員としての健康管理についての研修を実施することとしましたが、一方で消防団活動の増加による負担も軽減すべきであることから「安全管理セミナー」を1.5時間、「健康セミナー」を1.5時間というスケジュールで同日開催する運びとなりました。

4 安全管理セミナー、健康セミナーを実施して

平成25年2月3日（日）、これまでS-KYT研修を通じて本市消防団の公務災害防止に御協力いただいていた消防基金のS-KYT指導員・岡田講師に「安全管理セミナー」を、また、本市在住で各般にわたる地域貢献実績もある日本赤十字社宮崎県支部の森田講師に「健康セミナー」を御講義いただきました。

講義後のアンケートでは、ほとんどの消防団員が「原点（基本）に帰った安全確認の必要性」「健康管理＋リラクゼーションの重要性」を認識した

と記しており、講習内容を他の団員に周知するが、もっと多くの団員に受講させたいとの声が多数聞かれました。

日曜日の早朝から昼までの研修ではありましたが、受講した消防団員の清々しい表情で帰る姿を見て、間違いなく効果が得られるものと確信させられました。

今後ともS-KYT研修を含め、継続して各種研修を実施していきたいと思います。

5 おわりに

消防団員は生業を持つ一方で、有事の際の昼夜を問わない現場活動への従事や、仕事による心身の疲れを静養すべき週末等の訓練参加など、一般の市民にはない拘束を求められる環境にあるため、特に体調管理が必要になってきます。

また、消防団員の高齢化が進む地域や、若年団員の増加によって経験不足が懸念される地域など様々な状況にありますが、志は皆同じで、地域を守るという崇高な使命感を持ち続けています。

「消防団員が健康で安全に活動すること」が「地域が安心して暮らせる」ことに直結すると言っても過言ではないと思いますので、今後とも、大きな期待が寄せられる消防団員の健康管理の充実と安全管理の徹底を行い、公務災害ゼロを目指してまいりたいと考えています。



安全管理セミナーの様子



健康セミナーの様子